

(19)日本国特許庁(JP)

(12)公 開 特 許 公 報(A)

(11)特許出願公開番号
特開2025-172631
(P2025-172631A)

(43)公開日 令和7年11月26日(2025. 11. 26)

(51)Int.Cl.			F I		テーマコード (参考)	
C 0 9 K	17/06	(2006. 01)	C 0 9 K	17/06	H	2 B 0 2 2
C 0 9 K	17/10	(2006. 01)	C 0 9 K	17/10	H	4 D 0 0 4
A 0 1 G	24/12	(2018. 01)	A 0 1 G	24/12		4 H 0 2 6
B 0 9 C	1/08	(2006. 01)	B 0 9 C	1/08	Z A B	
			B 0 9 C	1/08		
審査請求 未請求 請求項の数 10 O L (全 13 頁)						
(21)出願番号	特願2024-78246(P2024-78246)		(71)出願人	000183266		
(22)出願日	令和6年5月13日(2024. 5. 13)			住友大阪セメント株式会社		
特許法第30条第2項適用申請有り 1) 発行所名: 公益社団法人 地盤工学会 刊行物名: 第15回環境地盤工学シンポジウム要旨 発行日: 令和5年11月2日 2) 開催日: 令和5年11月15日、16日 集会名: 第15回環境地盤工学シンポジウム 開催場所: 熊本城ホール (熊本県熊本市中央区桜町3番40号)				東京都港区東新橋一丁目9番2号		
			(71)出願人	598015084		
				学校法人福岡大学		
				福岡県福岡市城南区七隈8丁目19番1号		
			(74)代理人	110002734		
				弁理士法人藤本パートナーズ		
			(72)発明者	植田 竜也		
				東京都港区東新橋一丁目9番2号 住友大		
				阪セメント株式会社内		
			(72)発明者	宮脇 賢司		
				東京都港区東新橋一丁目9番2号 住友大		
				阪セメント株式会社内		
			最終頁に続く			

(54)【発明の名称】 緑生土壌、及び、緑生土壌の製造方法

(57)【要約】

【課題】改質土壌として利用可能な硬さを示しつつ、植物の生育に優れた緑生土壌と、該緑生土壌を製造可能な緑生土壌の製造方法を提供すること。

【解決手段】本発明に係る緑生土壌は、二水石膏、アルミナセメント及び吸水剤を含む土壌改質材と、土壌とを含み、電気伝導率が500μS/cm以上1000μS/cm以下であり、pHが5.0以上8.6以下であり、且つコーン指数が1000kN/m²未満である。

【選択図】なし